

HIV疫学研究班総会

HIV疫学研究班総会と研究発表会が平成7年3月8・9日の両日にわたって国立予防衛生研究所で開催された。この総会は、厚生省厚生科学研究として実施されているエイズ対策研究推進事業の平成6年度研究成果の発表会として開催された。

理論疫学情報部会からは1. 将来予測, 2. 疫学情報収集, 3. 社会経済的インパクトに関して9件の報告があり, 人口問題研究所からは高橋と稲葉が報告を行った。ハイリスク部会ではSTDおよび薬物濫用者に関して6件の報告がなされた。その他, モニタリング部会, 行動疫学部会, 臨床疫学部会, エイズと社会部会, 対策部会からそれぞれ報告がなされ, 全体で58件の報告が行われた。また, 本年度総会は, 昨年夏に横浜市で開催された世界エイズ会議の成果を受け, 国際的な研究交流にもとづく報告が数多く報告された。(高橋重郷記)

スペイン人口研究所 (CSIC, Consejo Superior de Investigaciones Científicas, Instituto de Demografía) への出張報告 (平成7年1月30日～3月3日)

厚生科学研究「家庭・出生問題総合調査研究推進事業」の日本人研究者海外派遣事業の一環として, 今日, 世界で最も低出生率の国のひとつであるスペインの国立研究機関であるスペイン人口研究所 (CSIC, Instituto de Demografía) に短期客員研究員として, 平成7年1月30日～3月3日まで滞在した。滞在期間中, おもに「出生動向の社会経済的側面の研究」に関するデータ収集およびフィールド・リサーチを行った。

この間, スペイン人口研究所長である Juan Antonio Fernández Cordon 氏とは, ほぼ毎日のように議論を交わし, 有益な助言を得た。そのほか, 同研究所に訪問中であった元フランス国立人口研究所長 Gérard Calot 氏をはじめ, バルセロナ自治大学人口研究センター所長 Anna Cabré, 社会調査研究所副所長 Margarita Delgado Perez 等の各氏と懇談し, 示唆ある助言を得た。また, 国立統計研究所などにおいてもデータの収集, 解析の協力を得た。(西岡八郎記)

日本地理学会1995年度春季学術大会

1995年度の日本地理学会春季学術大会は1995年3月30日～4月1日, 筑波大学 (茨城県つくば市) にて開催された。人口研究に関連して, 以下のような発表があった。

東京大都市地域における超過滞在外国人の居住地移動	清水昌人 (東京大学・院)
スペイン・カタルーニャへの人口流入	
- 流入者の職業的地位に関する若干の考察 -	竹中克行 (東京大学・院)
PR型パーセプトロンによる空間的相互作用モデリング	中谷友樹 (東京都立大学・院)
中国国内人口移動の分析	
- 1990年中国人口センサスデータから -	王 徳 (国際連合地域開発センター)
ネパール丘陵部農村における生存戦略	
- 人口移動の意思決定と社会階層 -	小林正夫 (東洋大学・社会学部)
タイにおける人口変化と環境変化の関連 (第1報)	
- その1: バンコクの居住地域構造 -	中川聡史 (厚生省・人口問題研究所)
タイにおける人口変化と環境変化の関連 (第2報)	
- その2: バンコク郊外住民の移動歴と出生行動 -	佐藤哲夫 (駒澤大学・文学部)

今回の大会では人口移動に関する若手研究者の意欲的な報告が目立った。清水報告は外国人問題研究, 中谷報告は数理地理学, 他報告もそれぞれスペイン, ネパール, タイの地域研究と接点を持っていることから明らかに, 人口移動プロパーの研究よりも, 他に専門分野を持つ研究者が人口移動に強い関心を寄せて行なった